



# 家庭教育支援者研修会

日時:令和3年12月4日(土) 10:00~15:30

場所:郡山市労働福祉会館 中ホール 参加者:36名

## 活動紹介「kokoyori」の取組について 10:15~11:00

**Kokoyori 代表 熊田ひろみ 氏**

- 須賀川市で写真館「タルカワスタジオ」を営む傍ら、須賀川市内で唯一の「子ども食堂」を立ちあげ、様々な体験活動などを取り入れながら子どもたちの心と体を育てるために活動しています。
- 小学生から高校生、地域の方々が身近な地域で安心して過ごせる放課後や地域の居場所として施設を運営しています。
- 平成28年に kokoyori を発足し、レンタルキッチンにて子ども食堂を開設し、たくさん子どもたちが訪れました。岩瀬農業高校の生徒や地域や企業の方の御支援や御協力もあり活動が充実してきました。フードパントリー、おゆずり会、みんなでごみ拾い、栽培・収穫活動など幅広い活動を展開しています。
- 「うれしき・たのしき・ありがたき」の心を大切に、いつでもだれでもの居場所、支援しあえる居場所としての役割を果たしていきます。受けた恩をつなげ、地域のつながりへと発展させ温かい家庭や地域づくりに貢献していきたいと思ひます。



Kokoyori 代表 熊田ひろみ 氏

## 講話「ペアレント・トレーニング」を学ぶ 11:15~12:00

**郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円 氏**

- 郡山家庭教育支援する会は、昭和57年に発足した教育団体です。子どもの健全な教育は、家庭と学校が常に連携して当たることで、望ましい成長が図られるという考えに基づき設立されました。
- ペアレント・トレーニングは、バッドサイクルからグッドサイクルへと変えることが重要です。望ましい行動を効果的にしつけるスキルの体得を経験的に学習すること、ほめる・教えるといった肯定的なしつけができるようにすること、子ども自身が自分をコントロールすることを目的としたトレーニングです。
- 6つのセクションがあり、6つの方法を学びます。コミュニケーションを図るための方法、行動をかえる方法、効果的に褒める方法、言って聞かせる方法、問題行動に介入する効果的な方法、緊張が高まった時の対処法など具体的な内容を学びます。
- ロールプレイの体験は具体的な事例を想定することが大切です。ロールプレイで多様なケースを体験すること、怒鳴ったり叱ったりせずに問題行動を止めることなど親の関わり方がとても重要になってきます。



郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円 氏

## 講演「インターネット・スマホ 子どもにどう使わせる？」 13:30~15:30

会津大学短期大学部 産業情報学科 教授 中澤 真 氏



会津大学短期大学部 中澤 真 氏

### 1 はじめに

- 将来の仕事内容は変化し、AI時代のライフスタイルやAIロボット対人間の時代がすぐにやってきました。
- 現在の社会的課題として、読解力の危機が挙げられます。
- 読解力向上のために、読書では「読んでどう考えるのか」ということを常に意識することが重要です。また、文章を読んで理解したことを基に自分の意見をまとめることなど、日頃から取り組んでいくことも読解力の向上につながります。

### 2 身近にひそむネット依存

- 令和2年度青少年のインターネット利用環境実地調査によると、小学生の平日のインターネット利用の平均時間は2時間26分、3時間以上利用している児童は34%になります。中学生については3時間20分と約1時間増え、3時間以上利用している生徒は52%と全体の約半数を占めるようになります。
- ネットゲームをやめられない原因として、集団でゲームを行うことから、友達とゲームをする約束を守ることやゲームで自分に役割があるためにやめられないことが挙げられます。また、友達とのレベルと比較して負けまいとして、レベルアップに熱中することが原因でもあります。
- ネット依存になると、スマホがないとイライラしたり落ち着かなくなったりします。スマホの使いすぎで睡眠不足にも陥ります。ゲームのことがばかりが気になり、家族や友達との会話が大幅に減るようになります。
- 子どもがネット依存にならないために、買う前にルールをつくり提示することが挙げられます。親もルールを守り、模範となる使い方を自ら示すことも必要です。リビングなど、家族がいる部屋で使うことも重要事項の1つです。

### 3 LINE や SNS の危ない使い方

- LINEなどのコミュニケーションツールの危険性は、見知らぬ人との交流（誘い出し）、いじめや友人間のトラブルなども多数起こっています。ネットで知り合った人のことをすべて信じてしまい、偽りの姿に気づかずに交流してしまう子どもたちもたくさんいます。
- 危ない目にあわないためには、インターネット上で知り合った人を簡単に信用しないことや自分についての詳しい情報や写真を教えないことなど、インターネット上でのトラブルを回避する方法を子どもに理解させることが必要です。
- 子どもがLINEを利用する場合の問題点として、IDさえ分かれば友達申請・登録ができてしまい、悪意のある大人からの誘引による性的被害の原因になるケースが多くあります。友達同士の間を深める一方で、「グループ化や仲間はずれ」が生じやすい傾向にあります。
- 自己中心的にならないコミュニケーション力を身に付けることが必要であり、友達からの返信がなくても「いらいらしない」「責めるような発言をしない」等の態度を育成したいものです。
- コミュニケーションのルールについては「相手がどのような気持ちになるか」を考えて発信するようにします。

### 4 不適切な情報をインターネットで発信するリスク～インターネットの公開性と記録性～

- 不適切な情報を発信すると、不特定多数に携帯番号を公開してしまったり、みんなに悪口が漏れたりすることが起きてしまう可能性があります。

- インターネット上での書き込みは、全世界に公開される危険性があり、コピーされると完全には削除できなくなってしまう。
- 個人情報特定されてしまい、被害を受ける危険性が大いに高まってしまいます。写真の公開にも十分な注意が必要です。写真にも位置情報が入っていて個人情報漏洩がさらに高まります。
- インターネットで違法にアップロード・ダウンロードすると200万円以下の罰金、2年以下の懲役に罰せられます。

## 5 詐欺や金銭にかかわるトラブル

- 怪しいサイトへの誘導はフィッシング詐欺メールで行われます。買った覚えのないアプリや商品を表示させ、偽のキャンセル手続きのリンクに陥れていきます。本物とほとんど変わらない偽サイトを巧妙につくりあげ偽サイトへと誘導していきます。
- 最近では、国際ワン切り詐欺が横行しています。着信に気づかせ、電話を折り返しかけさせることにより高額な通話料を発生させる手段です。簡単に折り返しの電話をすることなく十分注意する必要があります。

## 6 子どもを守るための基本手段

- 子どもがネットトラブルにあったときは、まずは子どもに安心させることが重要です。一人で悩む必要がないことや親も一緒になって守り解決していくつもりであることを子どもにしっかり伝えることです。場合によっては、警察や消費者相談窓口などの公的機関に迷わずに相談することも解決の糸口につながります。
- ペアレントトレーニングが重要です。ネットの危険性を教え、スマホ・パソコンを使う時のルールを家族で話し合いながら作ることです。使い方、利用時間の制限、利用できるサイトの制限など子どもが納得できるようにしていきましょう。
- フィルタリングが効果的です。「見せたくないサイト」の閲覧や利用できる時間や時間帯を制限できます。また、利用できるソフト・アプリなどの機能、子どもの利用状況を保護者が確認できるメリットがあります。

## 参加していただいた方々からの声

- 身近なところで、家庭教育のために活動されている方の具体的な取組をお聞きすることができとても勉強になりました。参考にしていきます。これからも活動をがんばってください。
- 地域で積極的に活動されている先生の行動に感動しました。うれしき、たのしき、ありがたき、なんとかなるの言葉、とても元気が出ると思います。
- 「ペアレント・トレーニング」という言葉を初めて聞きました。ステップをふんでトレーニングをすることで、より良い関係が築いていけることが分かりました。子どもたちと触れ合う中で生かしていきたいと思います。
- 実際にロールプレイをやってみて、良い親子関係を築く方法として非常に分かりやすかったです。虐待を防ぐためにも多くの母親にトレーニングを体験してほしいと思いました。
- インターネットやスマホは、無くてはならない時代になったので、親子でのコミュニケーションやルールを決め、有効性や危険性について定期的に機会を設け話し合っていくことが大切だと思いました。
- SNSの使い方、子どもたちのためにという内容でしたが、大人としても注意しなければならないことがたくさんありました。利用の仕方について自分自身を再考する機会になりました。